



平成30年6月5日 参議院 外交防衛委員会 沖縄の風 伊波洋一  
出典: 沖縄ドローンプロジェクト提供

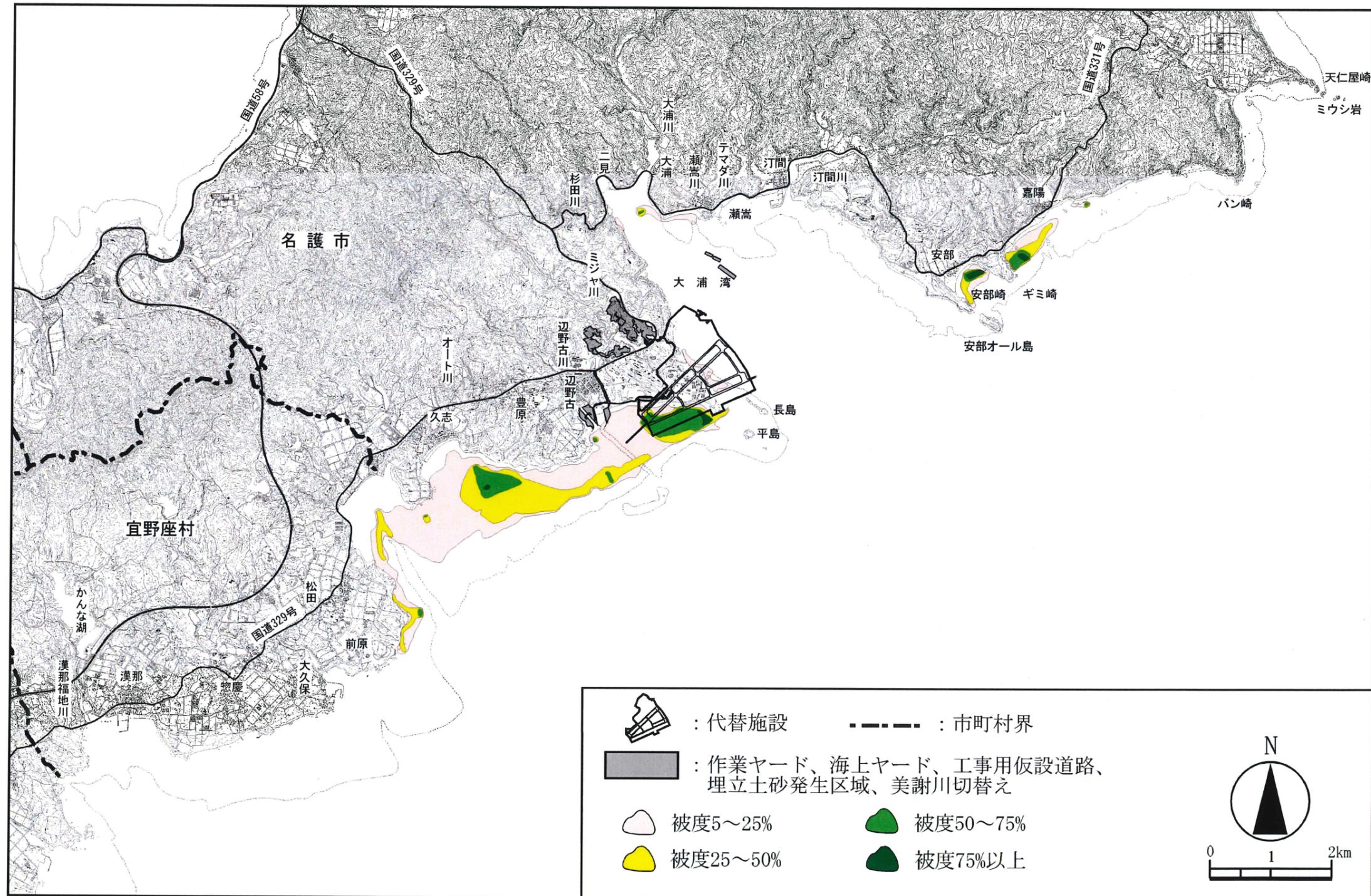


図-6.15.1.17 海草藻場の分布状況 (平成19年度)

資料:「シュワブ(H18)環境現況調査(その3)報告書」平成20年12月、沖縄防衛局

## 1) ジュゴンの新たな食痕が、わずか2か月で110本以上記録されました

### (1) ジュゴンのこれまでの辺野古・大浦湾の利用状況（食痕）

1990年代後半のジュゴンの目視および食痕の有無の調査結果によると、ジュゴンの目視記録は東海岸に多くみられる（図1）。

ジュゴンは草食性であり、海草（うみくさ）を餌としている。ジュゴンが海草を食べると、ジュゴントレンチと呼ばれる長さ1～3メートルほどの溝のような跡が残る（図2）。

ジュゴンの食痕は、普天間飛行場代替施設建設事業に伴う環境アセスメントのボーリング調査実施（2004年）以前は、本海域の辺野古岬の南側において恒常的に発見されていた（図3）。ジュゴンの食痕は、日本自然保護協会が年に数回、実施してきたジャングサウォッチ（海草藻場調査）においても発見され、環境省の「ジュゴンと藻場の広域調査」（2001～2005年）や、事業者である沖縄防衛局（旧：那覇防衛施設局）の環境アセスメント等の環境調査（1990年代後半～2013年）でも記録されてきた。



図1 ジュゴンの目視記録のまとめ（1990年代）  
（制作/ジュゴンネットワーク沖縄）



図2 ジュゴンの食痕

ジュゴンが海草を食べた痕が白っぽく溝状に見える  
（1998年 細川太郎氏撮影）



図7 図5の大浦湾奥部部分の拡大図 その2



図8 図5のキャンプ・シュワブ部分拡大図

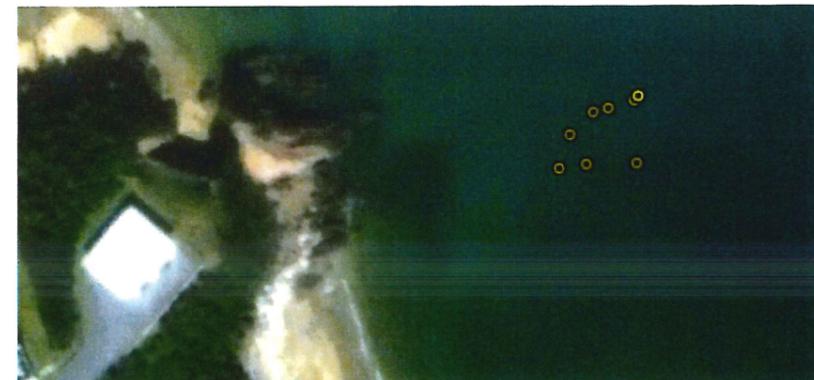


図9 図8の美謝川河口2014年7月5日分拡大図

## ジュゴン個体Cに関する環境監視等委員会議事録

委員 ジュゴンについては、個体Cが見られなくなったのは工事の影響ではないかとの報道もありますが、個体Cが見られなくなったことについて、どのような見解を持っているか、聞かせていただきたい。

事務局 これについては、ご専門の先生方にも事前にヒアリングをしております。その先生方のご意見としては、個体Cが死んでいるのかどうかというところは、まだ、現時点では、わかっていないと。ただ、成人して親離れして、離れていってしまったのではないかというご見解を頂いたところです。

(環境監視等委員会 (第9回) 議事録 平成29年9月27日)

委員長 はい、よろしいでしょうか。特に行方不明の個体Cについては、搜索網を広げるとか、オールジャパン体制で行うなど、色々考えたいというところです。

この資料の中で得られる範囲は限定されてしまっていることもありますが、その中では最善の方法で引き続き努力をしていただきたいということではないかと思えます。はい、委員、どうぞ。

委員 私もジュゴンについて。月ごとの非常に詳細な調査でジュゴンの行方を追っていますが、その結果によれば個体Aは嘉陽を生息場としているようですが、それをきちんと示すためにはこれまで、どこで発見してどういう行跡を辿ったのかをすべて明らかにした上で、嘉陽が生息場になっていることをはっきり示していただきたい。それから、もしそうであれば、主に食跡も嘉陽に集中しているようですが、この嘉陽の海草が個体Aの餌として十分なのかということについて、アセスの際に一度海草の生産量について計算されていますが、海草の分布も変わっていますので再度きちんと計算していただきたい。もしそれが十分でなければ辺野古の方に個体Aが餌を求めて来る可能性もあるわけですので、再度計算をお願いします。ジュゴンについては、委員長が今オールジャパンとおっしゃいましたが、環境省や沖縄県とも連携して、保全していただきたい。普天間飛行場代替施設を国として建設せざるを得ないのであれば、他の省庁や県とも連携して現存のジュゴンの保全や、さらには増やすための努力を進めていただけたらと思えます。そういう働きかけを防衛省からも是非していただきたい。

委員長 はい、よろしいでしょうか。特に嘉陽沖が重要ということですので引き続きよろしく願いいたします。それでは、予定の時間が過ぎてしまいましたけれども、「その他」のご意見をまとめますと、まずジュゴンにつきましては、いくつかのご質問がありました。現状ではとり得る最大限の努力が続けられていると思えますけれども、引き続き嘉陽沖の状況等を踏まえた上で、制約が色々ある中で、できるだけ他省庁との連携も含めた体制ができないかさらに努力をしてほしいと思えます。

(環境監視等委員会 (第12回) 議事録 平成30年2月8日)